

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4392700086		
法人名	ティーティーシー有限会社		
事業所名	グループホームあそ喜楽		
所在地	熊本県阿蘇郡高森町高森2133-8		
自己評価作成日	令和2年 2月 5日	評価結果市町村報告日	令和2年 4月21日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://search.kaigo-kouhyou-kumamoto.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人 九州評価機構		
所在地	熊本市中央区神水2丁目5番22号		
訪問調査日	令和2年3月1日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ご利用者様の高齢化が進み、施設内の壁面を利用した装飾や庭での園芸作業をされる方が少なくなりましたが個々のペースに合わせた支援を行っています。午前中は適度に体を動かし、午後にはレクリエーションや能トレを行い、メリハリのある生活を送って頂けるよう援助しています。また、栄養士によるバランスの取れた食事と十分な睡眠をとることにより、体力維持に努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

複数の事業所を持つ法人敷地内にある事業所では、入居者それぞれの生活が穏やかにそして和やかに営まれています。入居者の中には貼り絵を楽しむ方、畑仕事を楽しむ方とそれぞれの趣味を持ち過ごす様子が聞かれました。事業所では以前から居室は自宅であり、入居者一人ひとりは「居宅で関わっている一人世帯」との考えが浸透していることから、それぞれの生活を大切にしている姿勢が見えました。今年はコンプライアンスについて考える機会を持ち、これまでの業務について見直しを行い、業務改善にも取組まれました。入居者・家族が事業所を気に入り「最期まで」と望まれる声も多く、安全確認のための離床状況把握センサーが完備された居室も準備されています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念に沿ったケアを実践できるように毎年の目標を掲げて入居者の方がその人らしい生活を送れるよう毎月のケア会議で振り返りを行っている。	理念に基づいた事業所の年間目標を設定し、日々のケアを実践している。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近隣の商店への買い物や、地域行事への参加を継続している。また、地域の婦人会の方が冬場には訪問され、交流を深めている。	事業所では婦人会やボランティアグループ、祭りの披露等、地域からの来訪を歓迎している。来訪は恒例のものとなっており、入居者との関わりも深いものとなってきた。ボランティア来所の際は職員も共に時間を過ごし地域と入居者の繋がりの継続に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	中学生や高校生の福祉体験学習を通じて、認知症及び本人、家族への理解を地域の人々に深めてもらえるよう努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議を2ヶ月に1回開催している。その中で活動報告を行うと共に、今後より良い活動が出来るよう、地域や行政の方々の意見を聞き、サービスの質の向上に努めている。	運営推進会議には地域・行政・家族代表が参加し、事業所だけでなく町の高齢者と関わりを持つ法人全体の様子も伝えている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町役場の担当課や、社会福祉協議会との連携は良好で、相互に協力関係が出来ている。また、緊急時対応ネットワークのメンバーとして、緊急対応品備蓄の協力を行っている。	運営推進会議を利用し事業所の状況や日々の入居者の様子を伝えている。事業所は町の緊急対応品の備蓄も行っており、地域の安全にも協力している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施設が国道に面しており、夜間のみ玄関は施錠している。また全体研修会議などで、具体的な事例を出し、「知らないうちの身体拘束」のないケアの理解と徹底に取り組んでいる。	毎月の職員全体会議を利用し身体拘束をしないケアについて学びと振り返りを行っている。勉強会では具体例により職員の意見を出し合い理解の共有に繋げている。今年度はコンプライアンスに関する担当を決め、話し合いの中で身体拘束について考える機会を持った。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	全体研修会議等において、虐待についての理解を深めると共に、毎日のケアにおける自分自身のケアの仕方を見つめ直している。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	日常生活自立支援事業や、成年後見制度への理解認識が低く、活用できるような支援も不十分である。職員が、それらの制度や活用方法について、学ぶ機会を作っていくよう努力したい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約、解約については、運営者自らが文書の説明を行い、利用者や家族に十分な納得を頂いたうえで、締結解約を行っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族より、意見や要望などがあれば、全体研修会議やホーム長会議で、管理者や他職員に伝え、可能な限り運営に反映できるよう努めている。	家族には入居者の日々の様子や通院状況等を運営者自らまめに報告している。日々の面会や家族会でも職員からも声を掛け意見をj得ている。家族や入居者の意見は職員で共有している。運営者も家族との関わりが多いことから運営への反映にも繋がっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のケア会議で、職員の不安、要望、意見、気づきなどを発表する場を設けている。それらを受けて、検討した内容は施設長やホーム長で話し合い、可能な限り反映できるように努めている。	運営者は日頃の業務で管理者や職員との関わりを持っているため職員の意見や提案を聞く機会を持っている。職員会議は職員それぞれの意見を事業所でまとめ、さらに全体で話し合っており、意見を出しやすい体制が整えられている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者、職員の悩みなどを、個別に話す機会を設け、アドバイスやケアを行うことにより、向上心を持って働けるよう、職場環境の整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	社外にて研修できる制度を設けているが、すべての職員が受けられるような機会の確保がまだ不十分である。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	各研修会や講習会への参加を活用することにより、相互に交流し、情報を得られるような関係作りへのきっかけとなっている。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	安心して話せる環境を整え、何でも話せるような関係性の構築に努め、不安な事、希望などを聞き出している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が職員に、何でも話せるような雰囲気づくりに取り組み、なるべく多くのことを聞き出せるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その人らしい生活ができる様に、今、「何を求めているのか」、本人と家族の困っている事を見極め、サービスに取り込んで支援できるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	日常生活を共に助け合いながら、信頼関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や電話にて、本人の近況報告を行い、家族と職員が共に協力しながら、本人を支えることができるような関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の祭りや慶弔行事への参加を促し、地域の人々とのつながりを保てるよう努めている。また、これまでの生活を第一に考え、なじみの美容室を利用したり、イベントへの参加も積極的に支援している。	殆どの入居者が地域からの入居であるため、地域からの来訪も馴染みの関係である。家族との関わりも大切にしており家族の面会も継続して支援しており、友人の面会も見られる。以前は定期的に帰宅する入居者がいたため支援していた様子も聞かれた。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人ひとりの性格、相性、個性を考え、孤立するようなことがなく、穏やかな生活が送れるように工夫している。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も気兼ねなく新たなサービスを依頼出来るよう、施設外で会った時は気軽に声掛けし、相談や支援がしやすい関係を保つように心がけている。結果、退所後再入所された事例もある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活での会話を大切に、利用者の意向を汲み取れるよう努めている。その意向の実現が困難な場合は、本人にその理由を説明し、納得してもらったうえで、職員と共に代わりの案を話し合い、本人主体で考えられるよう支援している。	運営者・職員ともに日々の生活の中で入居者と触れ合い会話の時間を多く持ち、意向の把握に努めている。絵画や貼り絵等以前からの趣味を継続している入居者もいる。買い物希望があれば職員同行で道路向かいの店舗等へ出掛けている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族や本人から、その人のこれまでの生活歴や暮らし方、環境等を聞き取ると共に、関係機関と連携をとって、可能な限りの情報を集めるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	小さな気づきを大切にして、毎日の触れ合いの中で一人ひとりの状態を把握し、職員間で情報を共有しながら、ケアに役立てている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月モニタリングを行い、職員同士で意見を交換したり、介護記録を基に家族や医療関係者と話合った内容を考慮しながら、定期的に介護計画を作成している。また、計画の内容は家族に説明し、了承を得ている。	毎月のモニタリングは職員が集まり意見を出し合っている。入居者の状況や意向、家族の意見を反映し、関係機関や医療機関の意見も取り入れ、入居者の現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子や気づきを介護記録に記入し、それを基に、毎月のケア会議で現在のケアについて見直しをし、実践に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	各種の介護、医療機関や行政機関との連携を図ると共に、本人や家族のニーズの把握に努めることで、可能な限り柔軟に必要なニーズを満たすサービスを提供し、多機能化できるように取り組んでいる。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年数回、中高生の体験学習を受け入れている他、地域のボランティアの方が訪問され、レクリエーションを行われるなど、地域の方々と触れ合い、楽しむことができるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を重視し、本人及び家族の希望する医療機関を利用できるようにしている。また、かかりつけ医による定期的な往診もあり、医師が利用者の状態を継続してみられる環境を整えている。	入居前からのかかりつけ医の受診を継続して支援している。定期的な受診は往診も多く、通院が必要な専門医受診等は職員による介助を行っている。地元のかかりつけ医も複数あり、適切な医療受診を支援している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は医学的判断や処置が必要だと思われる場合には、必要な情報や気づいた事柄を小まめに看護職に伝え、迅速に適切な処置や受診が受けられるよう努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室とのやり取りを通じて、入院中の利用者の状態をリアルタイムで把握できるようにしている。また、退院時にもすぐに受け入れが出来るよう、情報交換に努め、協力体制を整え、信頼関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期のあり方について、本人と家族の意見や考え、希望を聞き、かかりつけ医の協力のもと、情報を共有して、関係者が一丸となって支援出来るよう努力している。	入居時に事業所の体制及び方針等について説明している。実施にその時を迎える際には関係機関とも連携をとり、事業所全体で支援している。看取りまでの対応は家族の希望も多く、また家族の協力も大きい。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	月1回の全体研修会議を利用して、看護職の指導のもと、全職員が応急手当や急変、初期対応の訓練を行うほか、実際の事例の検討も行っている。また、初期対応のマニュアルを作成、見やすいところに掲示して、緊急時に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	全体研修会議において、火災、地震、火山噴火、水害での被害予想や防災設備と使用方法の説明、避難の手順の講習を行った。また、火災を想定した避難訓練を行った。その他、地震の経験を生かして、新たな災害物資の貯蔵を行っている。	職員・入居者も参加した火災時の訓練を定期的に行っており、自然災害については職員会議にて手順の確認を行った。事業所は町の避難所になっており、災害物資貯蔵庫も敷地内にある。避難訓練については広報誌にも掲載し関係機関にも様子を伝えている。	

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様に対して慣れすぎないよう、全職員が利用者の尊厳に配慮した言葉かけと対応を身につけられるよう、職員間で注意し合うなどして努力している。また全体研修会議のテーマとしても取り上げている。	入居者の生活の中で、トイレや入浴等、プライバシーの確保が必要と考えられる時には職員間の共通理解のもと支援している。同性介助を希望される場合は対応している。事業所では「入居者は一人世帯としての関わりを持つ」との考えが浸透しており、現状心配な事例は見られない。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	傾聴の姿勢を大切に、本人の思いや希望を引き出せるよう努力している。また、自ら思いや希望を伝えられない利用者は、職員が表情や動作からそれらを汲み取るよう努めている。その上で、引き出した思いや希望は可能な限り実現し、自己決定出来るよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	画一的な声掛けではなく、一人ひとりの興味や体調、行動のペースを把握したうえで、それに合わせた声掛けをし、それぞれの希望のペースで一日を過ごせるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日々の整容に注意を払い、職員が声掛けや介助を行う事で、常に身だしなみを整えていられる様努めている。また服装についても、職員が声掛けや見守り、介助を行う事により、季節感を取り入れたその人らしい服装が出来るよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	一人ひとりの能力や生活歴を考慮して、役割分担してもらい、台拭きや食器拭き、下膳などの作業を行ってもらっている。また可能な場合には、職員も一緒に昼食をとり、会話をしながら食事を楽しめるよう支援している。	入居者の車椅子利用も多くなり、食事全体を通して関わりを持つことは難しくなっている。食事時間は職員と入居者は同席し会話も弾む。誕生日や季節行事には折りや重箱を使い見た目の楽しみも工夫されている。職員による検食では食事に対する意見も良く出ており、反映もなされている。	食事内容も充実し、生活の楽しみとされている様子がうかがえました。入居者の状況により食事全体への関わりは難しくなっていると思いますが、「生きがいをめざした自立」に向け出来るだけでもお手伝い等が継続される支援に期待します。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の摂取量を介護記録に記入し、食事量や水分量の把握に努めている。また、一人ひとりの摂取量や嚥下能力、体質や嗜好、疾患や体調に合わせて、食事量を調整したり、形態を変えたり、代替品を提供したりしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	可能な限り自分で口腔ケアを行う事に留意しながら、一人ひとりの能力に応じて、声掛けや見守り、介助を行っている。また歯科医師と連携し、必要な方にはその指示に従って、口腔ケアの介助を行っている。		

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録を基に一人ひとりの排泄パターンを把握すると共に、その日の体調やしぐさを観察し、必要な時に合わせてトイレ誘導を行っている。また夜間も、ポータブルトイレの使用や、排泄間隔に合わせた定時のトイレ誘導を行う事により、可能な限りトイレで排泄出来るよう支援している。	一人ひとりの記録を基に昼間・夜間とも出来るだけトイレでの排泄を支援している。夜間はポータブルトイレの使用もあるが、安易にオムツへの移行は行わない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録を基に、下剤の調整や牛乳の提供、腹部マッサージなどを行って排便を促し、便秘が多くみられる利用者には、水分量をチェックしたり、水分摂取の声掛け、運動の声掛けなど個別の対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週三回、その日の体調や気分、外出等の予定を考慮して入浴するかどうかを決めている。また、時間帯も本人の希望を聞いたうえで、可能な限りそれに合わせるようにしている。	週2～3回を基本とし、当日の体調や気分等により支援している。機械浴が設置されているので職員の負担軽減ともなっている。普通浴槽を希望される場合は隣設事業所での入浴も出来る。同性介助の希望にも対応する。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調や生活習慣により、本人が希望する場合はいつでも、本人の部屋にて休息できるようにしている。また夜間は、定時や必要に応じて異常がないか巡回すると共に、空調の調整や不安感がある時の談話などを行い、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	介護記録に処方薬の薬事情報をファイルし、チェックしている。また処方薬の変更があった場合には、口頭や連絡ノートでの申し送りの他、介護記録や業務日誌にも記入し、全職員が変更内容を把握できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	それぞれの能力や生活歴に合わせて、洗濯物畳みや食器拭き、飾り制作手伝いなどをしてもらう事で役割意識を持てるようにしている。また利用者の希望に合わせて、好きなものを食べたり、好きな事をして、生活に楽しみが持てるようにしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	職員付き添いのもと、天気の良い日には戸外散歩を行い、季節感を感じてもらえるよう努めている。また気候の良い時期は、月一回はレクリエーションの一環として、入居者全員で外出し、お花見やドライブなどの活動をしている。	一日の生活の流れも示されており、個別機能訓練の他、天候が良い時には苑外への散歩も予定されている。買い物等希望があれば個々に近隣店舗までの散歩も見られる。窓からは阿蘇の雄大な景色も臨むことが出来る。	

グループホームあそ喜楽

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手持ち金の上限を決め、その範囲内で利用者に現金を所持してもらっている。買い物代行や行きたいとの希望がある場合は、職員同行にて店に行き、買い物を楽しんで頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者より希望があった場合には共用の電話を使って、電話してもらっている。また、手紙や年賀状の作成を職員が介助したり、投函を代行したりして、家族や知人と連絡が取れるよう努めている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は落ち着いた雰囲気、室内も明るく、月ごとに花や折り紙、切り紙などで作った飾りを展示し、季節感を出している。また利用者と職員が、一緒に洗濯等を行い、生活感を感じてもらえるようにしている。職員は室内の照明や温度に気を配り、居心地よく過ごせるよう努めている。	事業所内は明るく温かい環境で、温湿度の管理が出来る構造で建築されている。窓からは季節ごとの阿蘇の景色を眺めることができる。日中は居室で趣味を楽しむ方、リビングで過ごす方、ソファでくつろぐ方と様々な様子が見られ、穏やかな時間が流れている。リビングは除菌消臭・花粉専用噴霧器を使用している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う利用者同士で、ホールにてテレビ鑑賞や談話を楽しまれたり、廊下やホールの一角に設置したソファで、新聞を読んだりうたた寝をしたりして、思い思いの時間を過ごされている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室では本人が使い慣れた物を置いたり、使いやすい様に家具等の配置を行う事により、一人ひとりの好みに合った、居心地の良い空間づくりに努めている。	収納が備えられた居室には家族写真やファンであった芸能人のポスター等も貼られ、それぞれの様子が窺えた。趣味の貼り絵等を楽しむ姿も見られた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	室内はバリアフリーになっており、手すりも各所に設置され、車椅子や歩行器使用の利用者でも安全に移動できるよう配慮してある。トイレはわかりやすい箇所に設置され、分かりやすい様にしている。		

2 目 標 達 成 計 画

事業所名 あそ喜楽

作成日 令和 2年 4月12日

【目標達成計画】

優先 順位	項目 番号	現状における 問題点、課題	目 標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1		利用者が自立できるような支援が不足している。	利用者個人個人が、「出来ること」を今一度見極め、その能力を維持もしくは伸ばすように支援していく。	1. 「出来ること」の再評価。 2. どこまで支援して良いかの見極め。 3. それを職員間で共用する。	3ヶ月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。